

東濃信金 新本店が完成

東濃信用金庫(多治見市本町、加知康之理事長)の新本店が現本店隣接地に完成し、報道関係者向けに内覧会が開かれた。鉄骨9階建て、延べ床面積は6716平方メートル。セキユリティーや防災対応を強化し、美濃焼タイルや県内産木工家具を多用した。創業100周年を迎える来年1月に向けて建て替えるを進めてきたもので、4日から新本店で営業を始める。(箕浦由美子)

4日から営業開始

1階は本店営業部、2階はホール、3階は応接室、4階以上は事務室など。最上階に社員食堂を設けた。来客は3階までとし、セキユリティー対策としてI.Dカード認証を利用する。非常時対応で免震構造や緊急汚水貯留槽、2回線受電を備えた。床面積は現本店より1割程度減らした。外観は発展や美濃焼の柔らかさをイメージしたデザインで、内装に多彩な美濃焼タイルや東濃ヒノキ材を使用。本部エントランスは林恭助、鈴木徹、安藤工の中堅陶芸家3氏による陶壁

と1万個以上のデザインタイルを使い、地元文化を体感できる空間にした。外壁装飾には金庫章をテラコッタで入れ込んだ。今後、現本店ビルを取り壊して駐車場にした上で、2023年3月のグランドオープンを目指す。現本店にある人間国宝の加藤孝造氏の陶壁は、2階に移設する。

内装に美濃焼タイルや県産家具



完成した東濃信用金庫の新本店。外壁の装飾には美濃焼のテラコッタが使われた。多治見市本町



本部エントランスは、美濃焼の陶壁やデザインタイルが飾られた。同